(1)詳細→http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000710713.pdf

明治はじめの霞ヶ浦・北浦

～第一軍管地方二万分一迅速測図原図に見る～

国土交通省関東地方整備局
霞ヶ浦河川事務所

平成30年3月作成

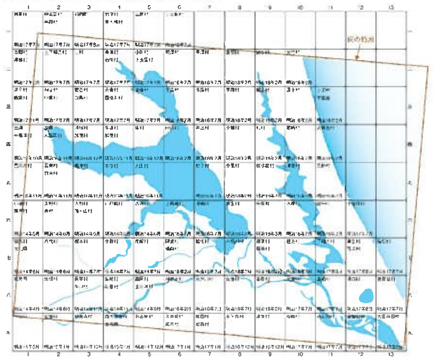
「第一軍管地方二万分一迅速測図原図」は、関東平野のほぼ全域を明治13年から19年にかけ参謀本部が測量を行ったものです。我が国の近代地図作成史上の最高傑作と言われています。

この迅速測図原図の原本は、測量の平板に紙を貼り測量の画線を直接書き込んで最後に彩色を施した、当時の測量技師による手描きの原図そのもので印刷物ではありません。この彩色による地図作成はフランスの技術を取り入れたもので、フランス式彩色地図と呼ばれます。その後、地図作成はフランス式からドイツ式に改められたため、このような彩色地図は作られなくなります。なお、この成果を使用してドイツ式による1色（黒）刷の二万分一迅速測図が後に刊行されています。

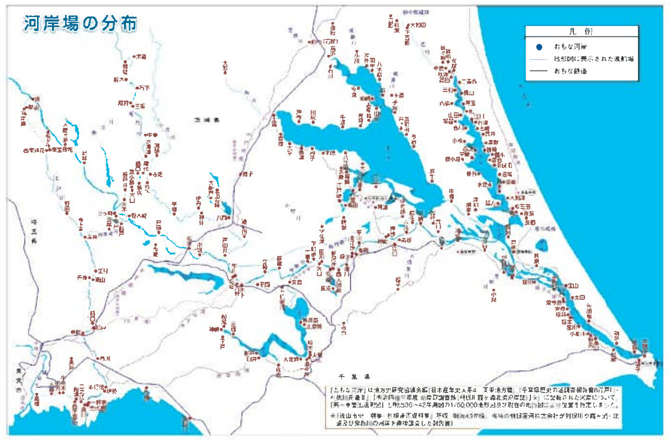
彩色式の迅速測図が広域で作成されたのは日本中で関東平野だけであり、伊能図が作られなかった霞ヶ浦・北浦の測量図としては最も古いものです。迅速測図原図には、当時の土地利用の状況、流入河川や湖岸の形状及び集落の家屋一軒一軒が正確に記録されており、明治時代になって十数年しか経っていない、即ち江戸時代末期とほとんど変わらない霞ヶ浦周辺の当時の様子を偲ぶことができます。

衛星写真のなかった時代の霞ヶ浦・北浦を、空から眺めるとこの地図のように見えたことでしょう。

霞ヶ浦・北浦集成図の範囲



河岸場の分布



物産品の輸出入に見る霞ヶ浦・北浦

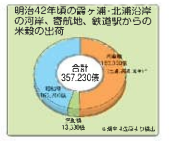
<東京への輸出産品>

霞ヶ浦・北浦沿岸から移出されたもので、その数量でひときわ目を引くのは薪です。流入河川の上流域や周辺の台地から集められた薪（"槙、松槙"）は、沿岸の河岸から東京方面に回漕されました。「量積粗大ナル」薪炭の輸送は「東京往復航回ニ一ヶ月ヲ要スル」ものの、鉄道や汽船に比べて運賃が安い和船によって担われました。明治43年頃の調査によるとその数は明治42年の1年間に4,500万束余に上り、同9万俵弱の木炭と共に東京の燃料消費を支えていました。

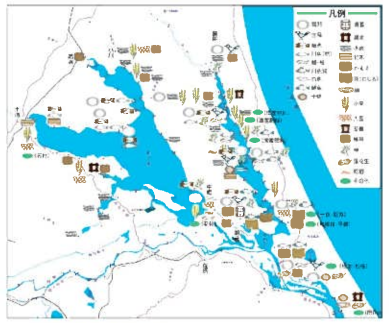
薪炭以外には米、小麦、大豆、その他雑穀や清酒・醤油、白魚・公魚、鰻鱺、鮮魚、佃煮などの水産品や海産肥料、鶏卵・家禽類、カマス、筵、縄などの梱包資材、柳、植木・松枝、そして数多くの雑貨類がありました※。

※上掲「明治四拾三年度 沿岸取調書類（利根川霞ヶ浦北浦沿岸誌）」より作成

明治42年頃の霞ヶ浦・北浦沿岸の河岸、寄航地、鉄道駅からの米穀の出荷

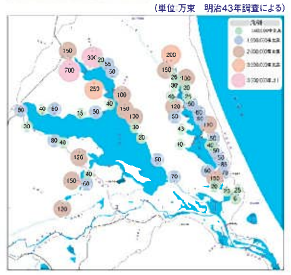


霞ヶ浦、北浦沿岸からの輸出物（米、薪、雑貨を除く）



霞ヶ浦、北浦沿岸からの薪の出荷

（単位 万束　明治43年調査による）



<東京から輸入された物品>

肥料類（過燐酸、大豆粕など）、塩、砂糖、石油、太物類、綿糸・綿布、塩魚類、乾物類、荒物類、長鉄類、薬材品、蜜柑、小間物類、その他雑貨

肥料類、雑貨類の一部は各地の河岸にも回漕されましたが、それらを含めて塩、砂糖、石油その他物品は土浦、高浜、小川、鉾田、牛堀、潮来、佐原などを拠点に輸送された後、近隣の村々に販売されました。

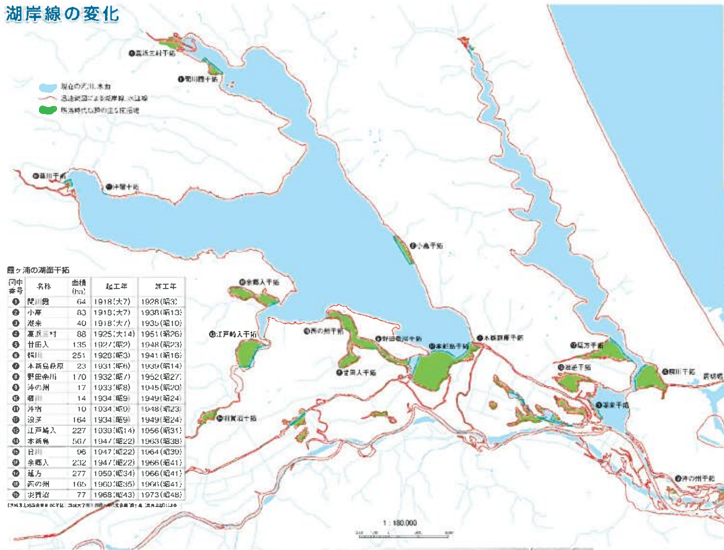
※上掲「明治四拾三年度 沿岸取調書類（利根川霞ヶ浦北浦沿岸誌）」より作成

(2)詳細→http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000710714.pdf

---

(3)詳細→http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000710715.pdf

湖岸線の変化



霞ヶ浦の湖面干拓

図中番号	名称	面積（ha）	起工年	竣工年
❶	関川霞	64	1918（大7）	1928（昭3）
❷	小高	83	1918（大7）	1938（昭13）
❸	潮来	40	1918（大7）	1935（昭10）
❹	高浜三村	88	1925（大14）	1951（昭26）
❺	甘田入	135	1927（昭2）	1948（昭23）
❻	鴨川	251	1928（昭3）	1941（昭16）
❼	本新島萩原	23	1931（昭6）	1939（昭14）
❽	野田奈川	170	1932（昭7）	1952（昭27）
❾	沖の洲	17	1933（昭8）	1945（昭20）
❿	藤川	14	1934（昭9）	1949（昭24）
⓫	沖宿	10	1934（昭9）	1948（昭23）
⓬	浪逆	164	1934（昭9）	1949（昭24）
⓭	江戸崎入	227	1939（昭14）	1956（昭31）
⓮	本新島	567	1947（昭22）	1963（昭38）
⓯	白川	96	1947（昭22）	1964（昭39）
⓰	余郷入	232	1947（昭22）	1966（昭41）
⓱	延方	277	1959（昭34）	1966（昭41）
⓲	西の洲	165	1960（昭35）	1966（昭41）
⓳	羽賀沼	77	1968（昭43）	1973（昭48）

昭和13年6月の洪水を伝える絵葉書（現土浦市内）

造成中の本新島干拓（「昭和26年　外堤締切完了（左：内側、右：霞ヶ浦）」）

昭和13年6月の洪水を伝える絵葉書
（「桜川より見たる霞ヶ浦の惨状（昭和十三年六月三十日）」）

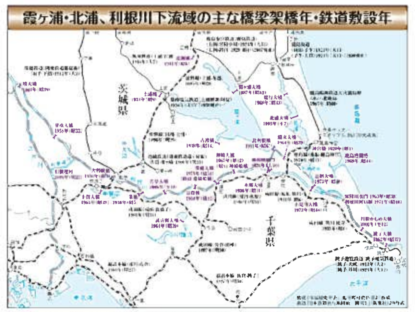
造成中の本新島干拓（「昭和28年12月　上空写真」）
写真はいずれも「写真で見る戦後開拓史－稲敷市本新島干拓－」
（稲敷市立歴史民俗資料館　平成21年）より引用

上　絵葉書「潮来河岸の景」
（写真集「利根川余情」（千葉県立大利根博物館1994）によれば「小堀より霞ヶ浦方面を望む（小堀町・大正9年）」）

下　絵葉書「水郷風景」
（右面が「郵便はがき」とあることから昭和8年以前のものと考えられる）

「小川の河岸に積み上げられ船積をまつ"マキ"」
写真提供：小美玉市小川資料館

霞ヶ浦・北浦、利根川下流域の主な橋梁架橋年・鉄道敷設年



「明治時代の利根川下流流域」の図版（利根川府県・地域づくり協議会）を引用・加筆

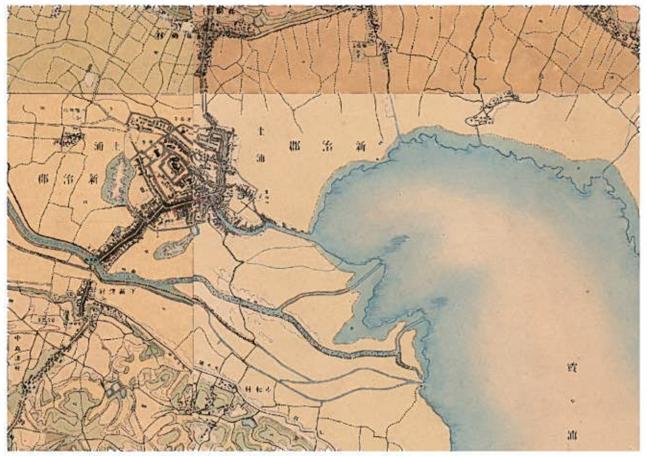
霞ヶ浦・北浦略年表

713	和銅 6	「常陸国風土記」を撰上、霞ヶ浦を「流海（ながれうみ）」と表す
1374	応安 7	応安の海夫注文　このころ、霞ヶ浦・北浦沿岸を拠点に海夫が活躍
1594	文禄 3	徳川氏、利根川本流の「会の川」締切工事着手（利根川東遷事業開始）
1650	慶安 3	霞ヶ浦四十八津掟書
1666	寛文 6	谷原新川（新利根川）完成
1752	宝暦 2	横利根川開削
1783	天明 3	浅間大噴火、降灰により以後洪水被害増大
1866	慶応 3	中館広之助により鰐川～鹿島灘への放水路"居切堀（堀割川）"に着手（～1871）
1871	明治 4	東京府、堀割川を竣工（推定）
1874	明治 7	旧麻生町でゴロ（小型のハゼ類）の佃煮製造始まる
1877	明治10	深川扇橋～霞ヶ浦高浜河岸間蒸気船就航
1880	明治13	折本良平、シラウオ帆引き網漁法を完成
1888	明治21	土浦から銚子、東京方面への定期航路運行。北浦に蒸気船就航（銚子丸）
1889	明治22	蒸気船高浜入りに就航
1890	明治23	蒸気船土浦入りに就航。利根運河完成
1895	明治28	通運丸就航、蒸気船（外輪船）全盛
1896	明治29	土浦町の大洪水。日本鉄道田端～土浦間開通。旧「河川法」制定
1900	明治33	利根川改修第一期工事（銚子～佐原間、霞ヶ浦下流部一帯）
1904	明治37	志戸崎に公魚缶詰工場（日露戦争により佃煮等需要増大）
1907	明治40	洪水・霞ヶ浦氾濫。利根川改修第二期工事（取手～佐原間）
1910	明治43	利根川の大洪水
1918	大正 7	関川霞干拓、小高干拓、潮来干拓起工。横利根川閘門完成
1919	大正 8	開墾助成法公布
1921	大正10	公有水面埋立法公布
1922	大正11	霞ヶ浦飛行場、霞ヶ浦海軍航空隊と改称
1925	大正14	高浜三村干拓起工
1928	昭和 3	鴨川干拓起工（～1941）、関川霞干拓竣工
1929	昭和 4	甘田入り干拓起工（～1948）
		ツェッペリン号霞ヶ浦に到着　鹿島参宮鉄道、石岡－鉾田間全通
1931	昭和 6	リンドバーグ霞ヶ浦へ訪問飛行。本新島萩原干拓起工。水郷汽船設立
1932	昭和 7	野田奈川干拓起工
1933	昭和 8	中ノ洲干拓起工
1934	昭和 9	藤川干拓、沖宿干拓、内浪逆浦干拓起工
1935	昭和10	利根川大洪水、霞ヶ浦水位YP+2.54m。潮来干拓竣工
1938	昭和13	霞ヶ浦洪水YP+3.34m/600mm（7日間）順流。小高干拓竣工
1939	昭和14	江戸崎入り干拓起工、本新島萩原干拓竣工。霞ヶ浦航空隊に海軍予科練習生部設置
1941	昭和16	利根川の大洪水YP+2.90m・315mm（4日間）逆流
1945	昭和20	中ノ洲干拓竣工
1947	昭和22	本新島干拓、白川干拓、余郷入り干拓起工
1948	昭和23	法河川に指定、北利根川（常陸利根川）の河道浚渫に着手、霞ヶ浦放水路事業着工
1949	昭和24	藤川干拓、内浪逆浦干拓竣工
1951	昭和26	高浜三村干拓竣工
1952	昭和27	野田奈川干拓竣工
1955	昭和30	鹿行地域に塩害発生。
1956	昭和31	塩害発生
1957	昭和32	塩害発生、本新島干拓竣工、霞ヶ浦水道事業着工
1958	昭和33	「水質保全法」、「工場排水規制法」の水質２法公布。塩害発生
1959	昭和34	常陸川水門着工。水郷筑波国定公園指定。国営延方干拓起工
1960	昭和35	国営西ノ洲干拓起工
1961	昭和36	「水資源開発促進法」「水資源開発公団法」の水２法公布
1962	昭和37	利根川水系水資源開発基本計画書（第1次フルプラン）閣議決定。
1963	昭和38	鹿島港着工、常陸川水門完成、本新島（與和田）干拓竣工。コイ小割式養殖開始
1964	昭和39	白川干拓竣工、新「河川法」公布
1965	昭和40	利根川河口堰着工
1966	昭和41	余郷入り干拓、延方干拓、西ノ洲干拓竣工
1967	昭和42	霞ヶ浦、北浦、鰐川、横利根川、常陸利根川が大臣管理区間指定。
		建設省霞ヶ浦工事事務所発足。湖岸堤に着手
1968	昭和43	鹿行大橋開通。羽賀沼干拓起工。茨城県内水面水産試験場設置。
1969	昭和44	鹿島港開港。筑波研究学園都市総合起工式。
1970	昭和45	霞ヶ浦開発事業着手
		霞ヶ浦導水事業が予備調査開始。黒部川、利根川河口堰完成
1971	昭和46	利根川河口堰完成
1972	昭和47	霞ヶ浦が公害対策基本法による水質基準湖沼A類型に指定された
1973	昭和48	霞ヶ浦の養殖コイの大量斃死、アオコの大量発生、水道にカビ臭
		羽賀沼干拓竣工
1974	昭和49	霞ヶ浦総合開発事業の指定ダムへの指定。最後の水浴場"歩崎"閉鎖。
		第1回霞ヶ浦清掃大作戦が実施される。レンコン作付が開始。
1976	昭和51	「霞ヶ浦水源地域整備計画」が決定・公布される（流域46市町村）
		湖面清掃船（アオコ回収船）清明丸稼働
		このころ霞ヶ浦の定期航路全面廃止
1979	昭和54	霞ヶ浦用水事業が開始される
1982	昭和57	「霞ヶ浦富栄養化防止基本計画」決定・告示（9月1日を霞ヶ浦の日とする）
1984	昭和59	霞ヶ浦導水事業着工
1987	昭和62	霞ヶ浦大橋開通
1992	平成 4	霞ヶ浦の大規模浚渫開始
1994	平成 6	利根導水路完成（3月）
1995	平成 7	第6回世界湖沼会議が開催される。（土浦市、つくば市）
		北浦大橋開通
1996	平成 8	霞ヶ浦開発事業完了、堤防暫定完成（3月）。
		霞ヶ浦開発総合管理を開始、水資源開発公団霞ヶ浦開発総合管理所発足
2001	平成13	霞ヶ浦「百万人の湖」推進事業を開始
2002	平成14	第1回霞ヶ浦意見交換会が開催される（土浦市）
2003	平成15	コイヘルペスによる養殖コイの大量斃死
2005	平成17	茨城県霞ケ浦環境科学センター開館

引用・参考　「霞ヶ浦北浦と利根川の年表」（茨城県内水面水産試験場ホームページ）
「清らかな水のために」（霞ヶ浦問題協議会）、「茨城県史年表」（茨城県立歴史館）
「霞ヶ浦　事業のあらまし」（霞ヶ浦河川事務所）、その他資料

---

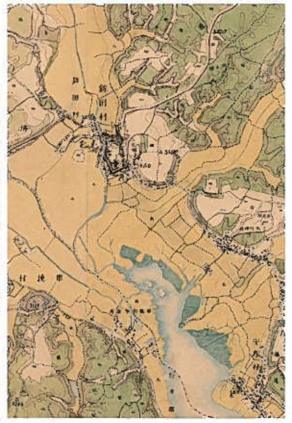
(4)詳細→http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000710716.pdf



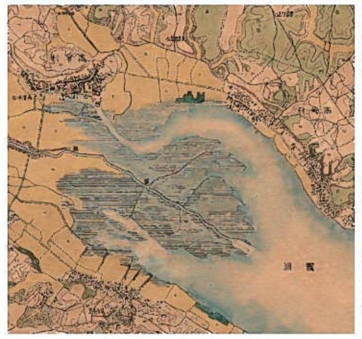
迅速測図原図（土浦周辺）1:20,000（原寸大）

このフランス式の迅速測図原図では、田は黄色、林は緑に着色されており、代表的樹種を表す文字表示も行われています。また、霞ヶ浦・北浦周辺の迅速測図原図では家屋記号が黒と赤に区分した表示が見られます。赤の家屋記号は石造りなどを示すものではないかと言われています。

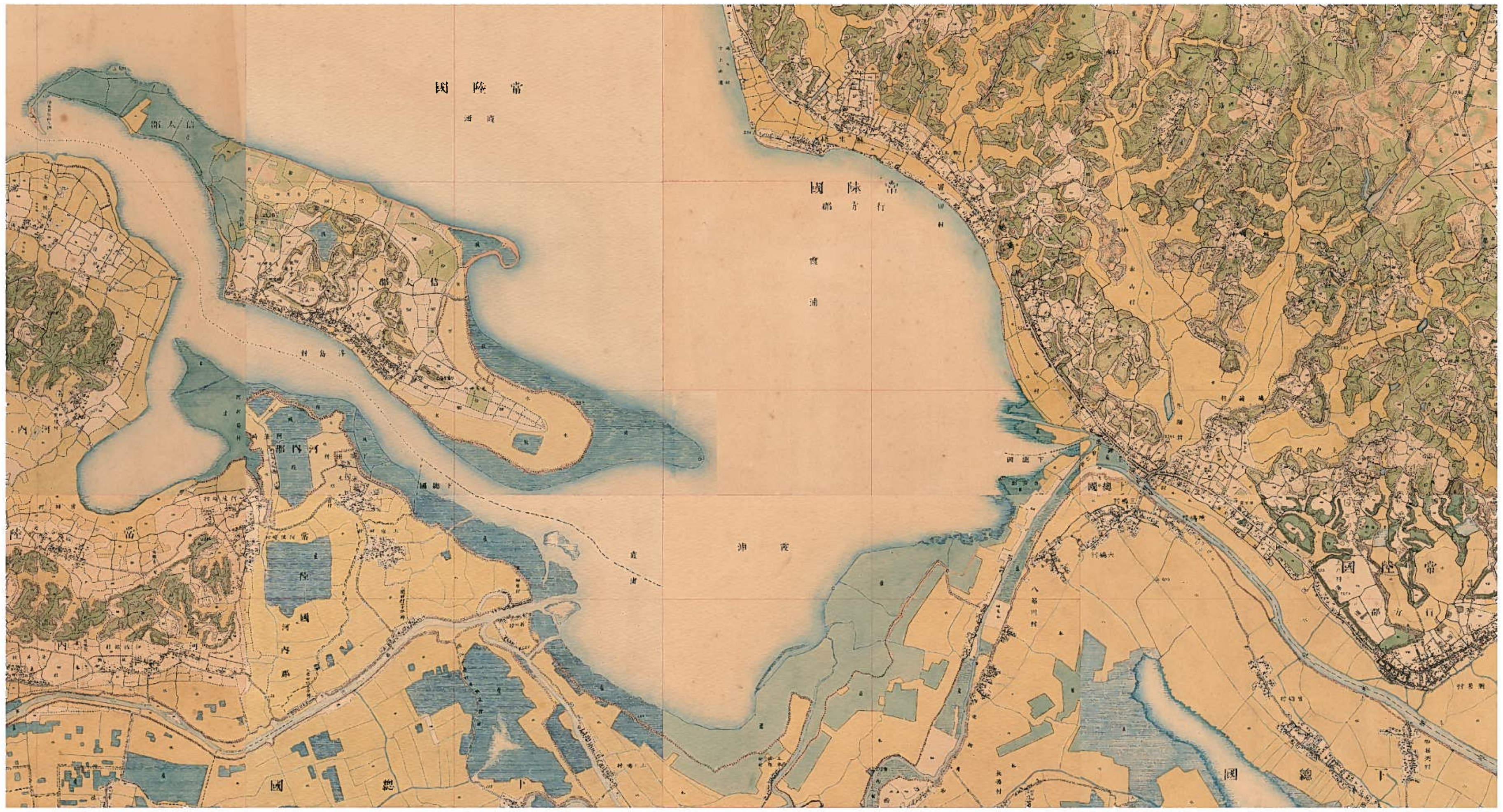
迅速測図原図（巴川河口）1:20,000



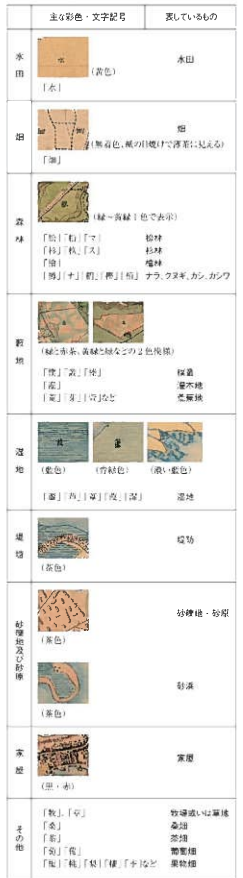
迅速測図原図（恋瀬川河口）1:20,000



迅速測図原図（浮島周辺）1:20,000（原寸大）



図中の主な記号や彩色



	主な彩色・文字記号	表しているもの
水田	（黄色） 「水」	水田
畑	（無着色、紙の日焼けで薄茶に見える） 「畑」	畑
森林	（緑～黄緑１色で表示） 「松」「柗」「マ」 「杉」「椙」「ス」 「檜」 「楢」「ナ」「櫟」「樫」「柏」	 松林 杉林 檜林 ナラ、クヌギ、カシ、カシワ
荒地	（緑と赤茶、黄緑と緑などの２色模様） 「篠」「叢」「笹」 「藪」 「荒」「茅」「萱」など	 篠笹 灌木地 荒蕪地
湿地	（藍色）　（青緑色）　（淡い藍色） 「蘆」「芦」「葦」「葭」「湿」	 湿地
堤塘	（茶色）	堤防
砂礫地及び砂原	（茶色） （茶色）	砂礫地・砂原 砂浜
家屋	（黒・赤）	家屋
その他	「牧」、「草」 「桑」 「茶」 「葡」「萄」 「梨」「桃」「栗」「柿」「苹」など	牧場或いは草地 桑畑 茶畑 葡萄畑 果物畑

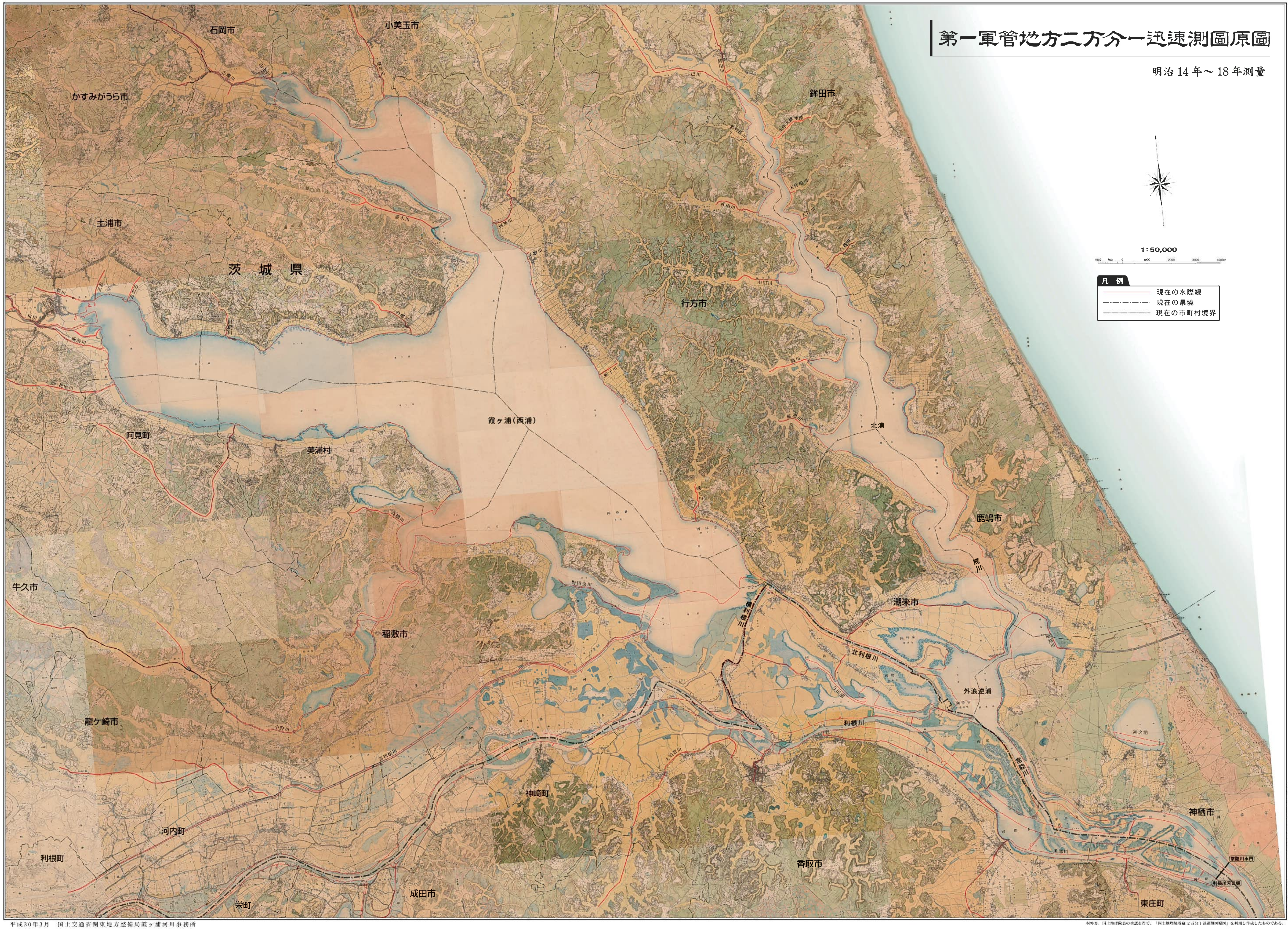
本図は、国土地理院長の承認を得て、「国土地理院所蔵 2万分1迅速測図原図」を利用し作成したものである。

(5)詳細→http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000710756.pdf

詳細→ http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000710723.pdf

第一軍管地方二万分一迅速測圖原圖

明治 14 年～ 18 年測量


石岡市
小美玉市
かすみがうら市
鉾田市
土浦市
茨 城 県
行方市
霞ヶ浦（西浦）
北浦
阿見町
美浦村
鹿嶋市
牛久市
潮来市
稲敷市
北利根川
外浪逆浦
利根川
龍ケ崎市
神之池
常陸川
神崎町
神栖市
河内町
利根町
香取市
常陸川水門
利根川河口堰
成田市
東庄町
栄町
1000 500 0 1000 2000 3000 4000m

1：50,000

凡 例

—	現在の水際線
—・—	現在の県境
- - -	現在の市町村境界

印刷　東京都千代田区神田小川町三ー一二　内外地図株式会社

平成30年3月　国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所

本図は、国土地理院長の承認を得て、「国土地理院所蔵 2 万分 1 迅速測図原図」を利用し作成したものである。